

パラグラフ・ライティング

パラグラフというのは、日本語では一般に「段落」と訳されますが、論文を書く際のパラグラフは単に読みやすいように区切られた文のまとまりというのではなく、論文の最小構成単位としての意味を持っています。

読み手にとって論理構成がわかりやすくなるように書くためには、この「パラグラフ・ライティング」という考え方を身につけておく必要があります。

日本の国語教育の中では段落は、意味段落と形式段落に分けられていました。パラグラフはこのちょうど両方の意味合いをもったものだと考えてください。文章を内容のまとまりごとに区切って読みやすくしたものがパラグラフではなく、1かたまりの内容が1つのパラグラフを形づくっていく、というイメージです。

【パラグラフの構成例】

1. パラグラフとは

論文を作り上げる最小単位としての内容のまとまりです。例えていうなら、機械を形作っている1つ1つの部品です。全部のパーツが構造的に組み合わさって一つの論文となっています。

1パラグラフには1つの役割（言いたいこと）というのが大原則です。

2. パラグラフの構成要素

①トピック・センテンス

1つのパラグラフで言いたいことは1つですが、それを1つの文に言い表したものを「トピック・センテンス」といいます。このトピック・センテンスを各パラグラフの最初にもって来ると、トピック・センテンスだけをつなぎ合わせると全体の要旨がわかるしくみとなり、読み手が理解しやすくなります。

②キーセンテンスを支える要素

このキーセンテンスで言っていることをより詳しく説明、補足したり、具体例をあげたりするのがサブセンテンスです。つまり1つのパラグラフは、1つのトピック・センテンスとそれを支えるいくつかのサブセンテンスで成り立っています。

③キーセンテンスの前のフック文

ただし、序論の場合は、トピック・センテンスの前にフックと呼ばれる前ふりの文章を書きます。最初からいきなり本題に入るわけにはいかないので、読み手の関心を引きそうな一般的な問題などを提示します。

3. 項目アウトライン、文アウトラインとパラグラフの関係

- ① 要点を書いた箇条書き（項目アウトライン）を、短い文にしたもの（文アウトライン）が、各パラグラフの「トピック・センテンス」にあたります。
- ② そのトピック・センテンスだけでは説得力が足りないので、十分相手が納得できるだけの説明や具体例（想定したつっこみに答えた内容）を加えていきます。
- ③ 具体例や説明によってはいくつもの項目にわたり長いものもあるので、いくつかのパラグラフに分けます。その際、「そして」「しかし」「一方で」などのつなぎの言葉や「第一に」「第二に」といった言葉を使って整理していきます。

パラグラフ・ライティングの基本原則を、パラグラフ・ライティングで書いた例※

	論旨(文アウトライン)		つっこみ		パラグラフ(ゴシックはトピックセンテンス)
1	パラグラフ・ライティングという書き方を紹介したい。	→	どうして紹介したいの？	→	論文を書くとき、どこで改行すればいいのかというのは、簡単なことのように、意外に日本ではその原則が確立されていない。書き手によって改行箇所はばらばらで、段落分けが読解の助けとなっていない文章が多い。そこで、 パラグラフ・ライティングという書き方を紹介したい。
2	英語で論文を書く際にはパラグラフ・ライティングという重要な作法がある。	→	それってどうして重要なもの？	→	英語で論文を書く際にはパラグラフ・ライティングという重要な作法がある。 これにのっっていない論文は、英語圏の大学では大減点される。同程度の期末レポートの内容では、この書き方がうまく書けていることが、成績がAになるかBになるかの別れ目になることすらある。

3	パラグラフ・ライティングはきわめて単純な原理にもとづいている。	→	それはどんな原理なの？	→	実はパラグラフ・ライティングはきわめて単純な原理にもとづいている。それは <ul style="list-style-type: none"> ・ ひとつのパラグラフ(段落)では一つの論点/主張だけを提起する。 ・ その論点をのべる文をトピック・センテンスといい、通常パラグラフの冒頭(または最後)におく。 ・ 段落の残りの部分は、その主論点を補強・拡充する為の論証や例示に充てる。 というものである。
4	パラグラフ・ライティングは、共通の基盤の乏しい相手に自分の言い分を伝えるためには有効な方法である。	→	どうして有効なの？	→	パラグラフ・ライティングは最初は面倒だが、いったん身につけると、共通の基盤の乏しい相手に自分の言い分を伝えるためには有効な方法である。なぜなら、このパラグラフ・ライティングののっとなって書いてある論文は、論旨がつかみやすいからである。各段落のトピックセンテンスだけを抜き出して並べれば一応論文の主旨が尽くせるから、論の展開は一目瞭然である。
5	パラグラフ・ライティングの考え方によれば「できあがった文章をパラグラフ/段落に分割する」のではなく、「それぞれ単一の論点をもったパラグラフを連ねることによって文章ができあがる」のである。	→	そう主張する根拠は？	→	パラグラフ・ライティングの考え方によれば「できあがった文章をパラグラフ/段落に分割する」のではなく、「それぞれ単一の論点をもったパラグラフを連ねることによって文章ができあがる」のである。現に、米国の新聞社では記者が送った記事を紙幅の制限などにより段落単位で取捨選択する権限が編集長に与えられている。しかし、段落内の一部だけを勝手につまみぐいすることは編集長といえども許されない。つまり、段落の内部に勝手に手を加えることは著作の同一性を著しく損ねると考えられているのである。
6	トピック・センテンスという概念によって段落をトピック・センテンスとその論旨を広げた文の集まりと定義できる。	→	それってどういう利点があるの？	→	逆に言えば、このトピック・センテンスという概念によって段落をトピック・センテンスとその論旨を広げた文の集まりというように、定義できるのである。それによって、「段落とは思考のまとまりである」といった、意味があいまいになるだけの説明でなく、どこで段落を切るべきかが明確に規定できることになる。
7	たとえ段落全体を一言であらわした文が見あたらない場合でも、主張しているのは単一の論点である。	→	論点を凝縮した一文がないのにトピック・センテンスがあるといえるの？	→	時には、段落の主たる論点をそのまま代表する一文が段落中に見当たらない場合もある。しかし、そういう場合でもやはり段落の論点は1つでなければならない。そしてその論点を一文で言い表すことが可能でなければ、まとまりのある段落とは言い難い。つまり、「トピック・センテンスは、表層にあらわれていなくても深層に潜在している。」という言い方をすることもできるわけである。
8	パラグラフ・ライティングを身につけるためにはある程度の練習が必要である。	→	そう主張する根拠は？	→	パラグラフ・ライティングを身につけるためにはある程度の練習が必要である。英語国民なら誰でもできるというのではなく、今ではこれを教えるために多くの大学がわざわざフレッシュマン・ライティングという原則必修コースを大学一年生に課しているぐらいである。英語圏の大学に留学した日本人学生が期末レポートで高得点が与えられない原因を調べてみると、この作文作法に不慣れなことに行きつくことが多い。
9	日本語で書く際も、パラグラフ・ライティングを意識することによってわかりやすい文章を書くことが可能になる。	→	そう主張する根拠は？	→	英語だけでなく日本語で書く際も、パラグラフ・ライティングを意識することによってわかりやすい文章を書くことが可能になる。特に学術論文やビジネス文書など実用目的の文章では、強力な武器となりうる。現にパラグラフ・ライティングを大きくとりあげた実用文書の書き方解説書が何冊も出版されているぐらいである。
10	これから実証科学の研究をはじめようという若い研究者は、ぜひパラグラフ・ライティングをマスターしていただきたい	→	どうしてマスターする必要があるの？	→	以上パラグラフ・ライティングという単純な原理を学べばわかりやすい文章が書けることを述べてきた。これから実証科学の研究をはじめようという若い研究者は、ぜひパラグラフ・ライティングをマスターしていただきたい。遠からず自分の手で論文を書くとき、そのありがたみを実感するだろう。

※表は佐々貴 義式「アカデミックな私を演出する」 http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/kiso-zemi/より一部修正して引用